

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護方法論 4
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	3年次 前期
学習目標	1. 地域で暮らす療養者宅の訪問時の対応について理解する。 2. 地域共生社会を理解し、地域における看護活動の広がりへの視点を持つことができる。 3. 地域で暮らす人々とその家族の看護を6つの視点を活用して対象を理解し、具体的な援助を考えることができる。 4. 地域・在宅におけるマネジメントを理解し、暮らしを支える看護を考えて看護の方向性をグループ内で導き出すことができる。
関連科目	社会福祉学 公衆衛生学 老年看護学 地域・在宅看護方法論1～4
学習内容	1. 事例を用いて6つの視点を活用した看護計画を立案する 2. 各家庭への訪問に際しての留意点や訪問看護に必要な持ち物 3. 地域でその人らしく暮らし続けるための支援についてグループでの検討 4. 実際の初回訪問を想定したロールプレイ 【演習】 事例に必要な看護を考える(アセスメント) 初回訪問を想定したロールプレイの役作りとイメージ作り 初回訪問時に必要な看護計画及び行動計画 5. 地域・在宅看護のマネジメント(退院支援など) 6. 暮らしの場における看護活動の広がりについて
授業時間外学習 (事前・事後)	訪問時のマナーについて各自事前学習を行う 実習で関わった症例をもとに、退院指導計画を立案する
評価方法	筆記試験50点＋課題提出にて評価
教科書	地域・在宅看護の実践 (医学書院)
参考文献	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 公衆衛生がみえる
講師のコメント	地域・在宅看護論実習に必要な内容をグループワーク・ロールプレイを通して学びます。また、暮らしを支えるための看護を具体的に考えることが出来るようにグループでの活動を通して学んでいきましょう。暮らしの場における看護活動の広がりについて学び、看護師としてどんなことが必要になってくるのかを考えていきましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	関係法規
回数(単位)	6回+ 2講師でテスト1回(2講師で1単位15時間)
開講年次	3年次 前期
学習目標	円滑な看護活動を行うために必要な保健医療・福祉の法的基盤を理解する
関連科目	公衆衛生学 社会福祉学
学習内容	1. 法律の基礎知識 1) 法 の 概 念 憲法25条 2. 生活者の健康と法律 1) 医事法 2) 保健衛生法 3) 薬務法 4) 社会保険法 5) 福祉法 6) 労働法
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(80点満点)
教科書	健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	関係法規
回数(単位)	1.5回+ 2講師でテスト1回(2講師で1単位15時間)
開講年次	3年次 前期
学習目標	円滑な看護活動を行うために必要な保健医療・福祉の法的基盤を理解する
関連科目	公衆衛生学 社会福祉学 基礎看護学概論
学習内容	1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師などの人材確保の促進に関する法律
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(20点満点)
教科書	健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	看護にかかわる法律を知り、看護師として自分に必要な手続きを含め、関わりがあることを知ってもらいたい。

区分	専門分野
授業科目	看護研究
回数(単位)	15回(テスト含む) (2単位30時間)
開講年次	3年次前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の発展に必要な看護研究の概要について理解する 2. 論文のクリティークの方法がわかる 3. ケーススタディを通し論文作成までのプロセスを学ぶ
関連科目	看護に生かす統計学
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究とは 2. 研究のプロセス <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究疑問とは 2) 文献検討・検索の方法 3) 研究テーマの明確化 4) 研究計画書作成 5) 研究の実践 6) 研究論文の作成 3. 研究方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 質的研究の研究デザインと方法 2) 量的研究の研究デザインと方法 4. 看護研究上の倫理的配慮 5. 論文のクリティークの実際 6. ケーススタディの取り組み(論文作成)
授業時間外学習 (事前・事後)	各々のケーススタディに関連する先行研究を複数読み、知見を広げて行きましょう
評価方法	課題レポート(50点)・ケーススタディ(50点)
教科書	かんたん看護研究 南江堂 看護のためのわかりやすいケーススタディーの進め方 照林社
参考文献	この1冊でできる！初めての看護研究 ナツメ社
講師のコメント	領域実習前半の事例の中から1例を選び、指導のもと各自の問題意識に基づいたケーススタディを、夏季休暇を活用し作成して行きます

区分	専門分野
授業科目	国際看護
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	3年次 前期
学習目標	多様な文化を持つ国際社会に目を向け、広い視野で看護を捉えることができる
関連科目	基礎看護学概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護とは なぜ国際看護について学ぶのか 日本における国際化 国際社会における看護の対象 2. 世界の健康課題に関連する国際機関、国際協力機関 3. 世界の保健医療システムと課題 4. 国際協力としての看護の実際 海外で看護活動をするには 資格の取得・働く上での課題 異文化理解 国際看護の実際(その国の保健医療の現状と課題、資格の取得、 文化を考慮した看護、看護技術の差異) (演習:ジグソー法によるグループワーク)
授業時間外学習 (事前・事後)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む地域における外国人市民の状況を調べ、地域における問題を考える ・国際看護の実際について、1つの国を取り上げ、その国の医療・看護の状況と問題について調べ、演習に参加する
評価方法	筆記試験とレポート併せて100点
教科書	基礎看護学① 看護学概論 (メディカ出版)
参考文献	
講師のコメント	看護の対象は世界の暮らすすべての人々です。 世界の動向に興味を持って臨んでほしいです。

区分	専門分野
授業科目	看護管理
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	3年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象に質の高い看護を提供するために看護管理の基礎的知識を学ぶ。 2. 看護をマネジメントできる基礎的知識を身につける。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアのマネジメントを理解する <ul style="list-style-type: none"> ・看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解する 2) 看護職のキャリアマネジメントを理解する 3) 看護サービスのマネジメントを理解する 4) マネジメントに有用な理論・考え方を理解する
関連科目	基礎看護学概論 関係法規
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理とは何か 2. 看護ケアのマネジメント 3. 看護キャリアマネジメント タイムマネジメント・ストレスマネジメント 4. 看護サービスのマネジメント 組織目標達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみ 人的・物的・財的マネジメント 5. マネジメントに必要な知識技術 組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	看護の統合と実践[1] 看護管理 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	統合実習では、看護ケアマネジメント・看護サービスのマネジメントについて、実践や見学から学ぶ機会を持つ。複数の看護師が複数の患者へ質の高い看護を提供するには、どのようなマネジメントが必要でどのような考え方を持つといいかこの講義を通して学んでほしい。

区分	専門分野
授業科目	看護の統合演習
回数(単位)	15回 (2単位30時間)
開講年次	3年次 後期
学習目標	1. 複数患者の安全安楽を考慮したチームでの看護のあり方がわかる 2. リフレクションを通して統合実習にむけた自己の課題が見出せる
関連科目	看護管理
学習内容	1. 3事例の24時間を考慮した看護を考える 看護上の問題を明らかにし看護目標・看護計画を考える グループでそれらの情報を共有する手段を考える 【 演習:ジグソー法によるグループワーク 】 2. 1週間・24時間を考慮した3事例の看護の優先性を考える 【 演習:グループワーク 】 3. 3人の模擬患者に対し看護を実践する 優先順位 医療安全 看護倫理 看護技術をふまえて臨床判断を行うための看護実践 【 演習:ロールプレイ 】 4. 複数患者が引き起こす割り込み状況の対処の状況をグループ全体で振り返り 24時間を踏まえた看護のあり方を明らかにする
授業時間外学習 (事前・事後)	事前に提示する事例の疾患看護を学習して授業に臨むこと
評価方法	100点満点(ポートフォリオ・ロールプレイ・グループワーク・対話で評価)
教科書	看護の統合と実践[1] 看護管理 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	グループワークが中心となります。時間外の話し合いやリフレクションが必要になります。 看護実践をVTRで振り返る機会があり自己の看護の傾向を客観視できます。 振り返りで見える自己課題は統合実習の課題につながります。よって、リフレクションがこの講義では重要になります。ポートフォリオを充実させるといいでしょう。

授業科目	特別講義(CE)
時間(単位)	4時間(クラス半分に分かれ、2日かけて実施)
開講年次	3年次
ねらい	<p>看護師が日常使用・管理する頻度の高いME機器について、取り扱う上での留意事項を理解する</p> <p>医療機器に関する基本的構造・取り扱い方法を理解する</p> <p>医療取り扱い時に起こりうる医療事故を知り、事故防止の視点が持てる</p> <p>講義は安城更生病院で行う</p>
事後課題	レポート提出

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 地域・在宅看護論実習
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次
目的	対象と対象を取り巻く環境を理解し、在宅でのQOLを見据えた看護のあり方を考えることができる
目標	1. 地域で暮らす人や退院に向かう人の個別性に応じた必要な看護や支援の方法が理解できる 2. 対象の暮らし、価値観を尊重したサービスの活用が理解できる 3. 保健センターや地域包括支援センターの施設や各事業の目的が理解できる 4. 場面や相手に応じた行動をとることができる
実習内容	1)実習目的・目標からビジョンゴールを設定し、自己の学習計画を立て、必要な学習課題に取り組む(共通) 2)在宅療養者の生活を支えるための看護について考える(訪問看護実習) 3)初回訪問で得た情報から必要な援助を考える(訪問看護実習) 4)対象に応じたサービスの目的を考える(介護支援事業所実習) ・ケアマネジャーに同行し、モニタリングを見学する 5)退院コーディネーター・MSWに同行し、退院支援を見学する (入退院支援課実習・医療福祉相談課実習) 6)保健センターの設置目的や事業内容について、事前に学習し実習に臨む。 ・成人、母子保健事業に参加する (保健センター実習) 7)体験を振り返り、急性期にある対象の看護について考え、今後の看護に生かそうとしている * 詳細については、実習要項参照

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 成人看護学実習1
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次 (領域別実習のうち2科目は2年次)
目的	急性期にある対象とその家族の心と身体を理解し、対象の状態に応じた看護実践能力を養う
目標	<p>周手術期にある対象の状態を分析し、必要な援助を安全・安楽に行う事ができる</p> <p>1)術前・術中・術後の状態を予測し、合併症予防や回復促進のための援助ができる</p> <p>2)術後の観察に必要なフィジカルイグザミネーションが活用できる</p> <p>3)変化する対象の状態をとらえながらその場に応じた援助ができる</p>
実習内容	<p>1)実習目的・目標、スケジュールから実習のビジョンを明らかにし、自己の学習計画を立てる</p> <p>2)周手術期にある相手やその家族の変化する心の状態をとらえる</p> <p>3)5つの視点から術前の状態を分析し、必要な援助を実施する (5つの視点:呼吸・循環・栄養/代謝・消化管・精神)</p> <p>4)手術室で相手の見学実習を行う</p> <p>5)5つの視点から術後の状態変化を経時的に分析し、必要な援助を実施する</p> <p>6)ICUで見学実習を行う</p> <p>7)体験を振り返り、急性期にある対象の看護について考え、今後の看護に生かそうとしている</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 成人看護学実習2
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次 (領域別実習のうち2科目は2年次)
目的	脳・神経機能障害や運動機能障害をもつ対象を理解し、回復過程に応じた看護実践能力を養う
目標	残存機能を最大限に活用しながら、その人らしい生活を支援する看護ができる
実習内容	<p>1) 実習目的・目標などからVGを明らかにし、自己の学習計画を立て実習に取り組む</p> <p>2) 対象に関心をもち積極的に関わりながら、健康への願いや思いに寄り添う</p> <p>3) 身体機能の回復促進と二次的障害を予防する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルイグザミネーションを活用し、必要な観察を行う ・術式や治療を理解し、異常の早期発見や合併症の予防に努める <p>4) セルフケア行動の確立に向けた生活支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア能力をふまえ、退院後の生活を予測する ・リハビリ(PT・OT・ST)を見学する ・日常生活行動の維持拡大に努める <p>5) 医療チームメンバーとの関わりの場面に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟内で行われるカンファレンスに参加する ・他職種と連携した看護を行う <p>6) 退院後の生活に必要な支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者と家族の障害受容の段階を捉える ・地域で暮らす自宅での生活や転院先での生活をイメージ化する <p>7) 体験を振り返り、回復期にある対象にとっての看護の意義を明らかにする</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 成人看護学実習3
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次 (領域別実習のうち2科目は2年次)
目的	慢性期・終末期にある対象の発達段階と健康レベルを踏まえ、生活者としてよりよく生きることを支援するための看護実践能力を養う
目標	<p><慢性期> 生活様式や生活習慣を尊重しながら、病と共によりよく生きていくための支援ができる</p> <p><終末期> 思いに寄り添い、最期までその人らしく生きることを支えながら安寧に向けた援助を実践できる</p>
実習内容	<p>1) 自己課題を評価し課題達成に向けて戦略を立てながら取り組む(共通)</p> <p>2) 相手の健康行動を支えるために必要な支援を考える(慢性期)</p> <p>3) 慢性期にある相手やその家族に必要な援助を行う(慢性期)</p> <p>4) 慢性期にある相手やその家族の心理面を考えながら関わる(慢性期)</p> <p>5) 慢性期における多職種との連携の必要性を考える(慢性期)</p> <p>6) 体験を振り返り、慢性期にある対象にとっての看護の意義を明らかにする(慢性期)</p> <p>7) 終末期における症状・治療を理解し、苦痛緩和を考えた日常生活援助を行う(終末期)</p> <p>8) 終末期にある相手やその家族の心理状態を理解し、精神的苦痛を緩和するための関わりを行う(終末期)</p> <p>9) 体験を振り返り、自らの死生観と向き合い、終末期の看護の意義を明らかにする(終末期)</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 老年看護学実習1
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次 (領域別実習のうち2科目は2年次)
目的	健康障害を抱えた高齢者が、その人らしい生活が送れるような看護を実践する能力を養う
目標	<p>老いと疾病に伴い阻害される日常生活を把握し、QOLを高める看護ができる</p> <p>1)高齢者の健康障害の特徴を踏まえ、疾病からの回復を促進する看護を実践できる</p> <p>2)入院生活における高齢者の日常生活援助を個別性を踏まえて実施できる</p> <p>3)高齢者および家族の思いや生活を考慮した支援を考えることができる</p>
実習内容	<p>1)実習目的・目標から学ぶべきことを認識し、疾病を抱えた高齢者の看護をするための自己の学習計画を立てる</p> <p>2)加齢変化や健康障害によって生じる高齢者の気持ちに寄り添って関わる</p> <p>3)高齢者の健康障害の特徴をふまえ、状態を悪化させず、維持や回復ための援助を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患から出現している症状の根拠をとらえる ・加齢変化と症状のつながりをとらえる <p>(カンファレンスで主要な症状についてディスカッションする)</p> <p>4)入院生活によって支障をきたしている高齢者の日常生活援助を個別性をふまえて実施する</p> <p>5)高齢者や家族の思いや今後(退院後)の生活を視野に入れ看護について考え実践する</p> <p>6)体験を振り返り、老年看護のあり方について考える</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 老年看護学実習2
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次 (領域別実習のうち2科目は2年次)
目的	高齢者の特徴を理解し、対象者の意思を尊重しその人らしく過ごせる日常生活援助の実践能力を養う
目標	1. 介護老人保健施設で生活する高齢者のQOLを高める看護ができる 2. 高齢者に対する継続ケアおよびチームケアの必要性和看護の機能(独自性)について考える
実習内容	1)実習目的・目標などからVGを明らかにし自己の学習計画を立て実習に取り組む ・対象(目の前の高齢者であるその人)の意思を尊重して関わる 2)認知症高齢者の日常生活援助を行なう ・動作を細分化し観察する ・PT,OTが行うリハビリテーションを見学し話す機会を持つ ・介護士と話す機会を持つ 3)認知症悪化および老年症候群(転倒、尿失禁、便秘、脱水、嚥下障害、褥瘡)の予防への援助を行なう ・認知症高齢者とコミュニケーションをとる ・充実した生活を送るための余暇活動の支援を行なう 4)体験を振り返り、老年看護のあり方について考える ・機会を捉えてフロア検討会や他の職種との連携場面に参加する ・「社会支援について-受けているサービスを知り費用を算出」 ・「介護老人保健施設における看護師の役割について」「老年看護のあり方について」など * 詳細については、実習要項参照

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 小児看護学実習
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次 (領域別実習のうち2科目は2年次)
目的	成長発達し続ける子どもとその家族を理解し、その子らしい生活を送るための看護を学ぶ
目標	<p><ひまわり園> 健康な子ども(0～3歳)の成長発達に関心をもち、成長発達を促す日常生活援助ができる</p> <p><病棟> 健康障害をもつ子どもとその家族に関心をもち、成長発達や健康状態に応じた子どもとその家族への看護ができる</p>
実習内容	<p>1) 自己課題を評価し、課題達成に向けて実習に取り組む</p> <p>2) 柔らかい表情を意識しながら子どもと目線を合わせ、相手に理解できる言葉や態度で自ら関わりを持つ(共通)</p> <p>3) 子どもの生活背景・家族背景に関心を寄せながら関わる(共通)</p> <p>4) 子どもにとっての安心・安全な環境を見学する 保育士が子どもにどのように関わっているのか観察し、自分の関わりに活かす 保育士とともに健康な子ども(0～3歳)の日常生活援助(食事・排泄・清潔・衣服の着脱・午睡・遊び)を体験する (ひまわり園)</p> <p>5) 親とひまわり園との連携を知る ・親と保育園との連絡ノートを読んだり記載することで育児の方向性や保護者の思いに触れ、関わりに活かす (ひまわり園)</p> <p>6) 子どもの成長発達を踏まえた日常生活援助(食事・排泄・清潔・衣服の着脱・睡眠・遊びなど)を行う (病棟)</p> <p>7) 検査・処置を見学する (病棟) ・輸液管理、骨髄穿刺、腰椎穿刺など</p> <p>8) 学習・余暇活動を支援する (病棟)</p> <p>9) 子どもの入院前後における家族成員の役割変化を知る (病棟)</p> <p>10) 病棟とひまわり園の体験から、病気である状況と本来の元気な姿を結びつけて振り返る</p> <p>11) 病院内外の医療・福祉サービスに携わる人々について、職種やその役割について調べる</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 母性看護学実習
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次 (領域別実習のうち2科目は2年次)
目的	周産期における対象の特徴と健康課題を理解し、対象(母親・新生児・家族)がより良く健康的に生活するために必要な看護を実践できる能力を養う
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の意思や価値観を尊重し、新しい役割に適応できるよう支援を行うことができる 2. 対象がセルフケア能力を高め、健康的な生活を営めるよう知識技術を提供できる
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自己課題を評価し、課題達成に向けて実習に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・周産期にある対象のねがいや思いを知る 2) [妊娠期の看護] <ul style="list-style-type: none"> ・健康な妊婦の生活の様子や心情を知る機会を通して親への移行の過程を理解する ・治療妊婦の生活を支援する 3) [分娩期の看護] <ul style="list-style-type: none"> ・見学可能であれば、産婦の反応に合わせた支援を行いながら分娩に立ち会う ・分娩見学ができなかった場合は、実在事例をもとに状況に沿った看護を考える 4) [産褥期の看護] <ul style="list-style-type: none"> ・母子一体で援助を考える ・2週間後健診、1か月健診の見学から母子の今後の姿を想像する ・新生児の全身観察から、その状態に適した世話や沐浴を行う ・母子の望む生活の実現に向けた支援を行う 5) 体験を振り返り、母性看護の意義を明らかにする <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 精神看護学実習
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次
目的	信頼関係を構築する過程の体験を通し、心を病む人を支える能力を養う
目標	心を病む様々な要因の関連、対人関係の重要性を理解し、人格尊重、共感を基本とした看護ができる
実習内容	<p>1)実習目的・目標などからVGを明らかにし、自己の学習計画を立て実習に取り組む</p> <p>2)精神疾患に特有な症状がある人に関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偏見についてカンファレンスで話し合う ・隔離室(身体拘束)の体験(または見学)をする <p>3)病態に合わせた援助の根拠を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服薬管理の現状を知る ・抗精神病薬を服用する相手の気持ちに寄り添う <p>4)関りを振り返って対人関係能力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技法を活用する <p>5)社会復帰、日常生活の活性化、自立を見据えた支援を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア理論、精神看護の概念を活用して取り組む ・デイケア・OTに参加する <p>6)実習での学びを振り返る</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	領域別実習 統合実習
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	3年次
目的	複数の患者に合った看護を実践することを通し看護マネジメントの基礎的能力を養う
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護ケアマネジメントができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生チームにおいてリーダー・メンバーの役割が果たせる 2) 複数の受け持ち患者に対し優先順位を考え安全で安楽な援助が行える 3) 看護チームの一員として報告・連絡・相談が行える 4) 看護チームで看護の方向性が共有できる 2. 看護サービスマネジメントが理解できる
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) チーム内で役割を果たすために、自己の能力を分析し、他者理解に努め、チームの一員として日々の実習に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の弱み・強みを明らかにするために現状分析を行う 2) リーダーとしての役割を果たす <ul style="list-style-type: none"> ・ 受け持ち患者のその日の状態や日勤帯のケアの進行状況から人・時間・援助の調整を図る 3) メンバーの役割を行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動計画を立案する ・ 看護計画に基づいた看護実践を複数の患者に行う 4) 日替わりリーダーやサブメンバーに相談を行う 5) 看護チームの一員として情報伝達を行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な内容を報告・連絡する 6) 学生チームのショートカンファレンスを行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 午前中の援助の状況を報告し午後からの援助の調整を図る ・ ケースカンファレンスを行い看護の方向性や看護援助を検討する ・ スタッフのショートカンファレンスに参加したり申し送りを行う 7) 看護マネジメント(サービス・ケア)の実際を見学する <ul style="list-style-type: none"> ・ 課長見学を行う ・ リーダー見学を行う ・ スタッフに同行する 8) 振り返りから、自己課題や複数の患者の看護のあり方について明らかにする <p>* 詳細については、実習要項参照</p>